

富士登山(3,776m)

期 日 2012年7月24日～25日

参加者 石川誠 他2名

記 録

7月24日(月)

横須賀 6:40-御殿場駅 8:50 着-富士宮 5合目登山口 11:15-八合目分岐 16:10-赤岩八合館 17:10

自宅から車で東名高速経由、御殿場駅へ。ここで参加者の一人を載せて一路富士宮登山口へ行く。表富士スカイラインを登り五合目駐車場に着くころには、両側の道路わきには登山者の多くの車が駐車していた。駐車スペースを見つけながら、とりあえず五合目の駐車場へ車を進める。ここで時間的に下山してくる登山者も三々五々降りてきて運よく1台のスペースを確保することが出来た。

私は昨年高度順化を兼ねて仲間2人と同コースを登って頂上でビバークしているが、妻は娘が小学生5年生と1年生の時に登って以来の登山であり、妻の友人は初めての富士登山。

今年8月にピースボートに乗って世界一周の船旅に出るとのことで思い出作りのために1年前から登山を初め、丹沢や、金時山、陣馬などこの登山に備えてきたのである。絶対に頂上まで登りたいとの思いから今回乞われて案内役を買って出た次第である。

1時間ほど準備と食事などしながら、高度になれるための時間を過ごし、のんびりとしたペースで五合目登山口を出発する。

なにしろ初めての富士登山でもあり、途中高度障害で登頂できないと申し訳ないのでのんびりとしたペースで高度を上げる。ペースは遅いものの順調に高度を稼ぐ、途中休憩していると国体委員会の富田さん親子と出会いしばし歓談、ランパンに運動靴トレイルランの格好で降りてきたのにはさすが元国体選手と感心することしきり。富士宮登山道八合目から御殿場ルートへのブルトーザ一道の広い登山道を、トラバースし、今晚の宿泊場所である赤岩八合館に到着する。

暖かいお茶でもてなしを受け蚕棚の寝る場所を指定される。宿泊費は一泊二食7000円で夜食は具沢山のカレーライス、レトルトではなくお代わり自由とのことでいので大変美味しかった。



「赤岩小屋の人たちと」

この小屋にお世話になるのは昭和60年8月横須賀山岳協会創立30周年記念登山で市民の方々を案内した時と妻や娘たちとファミリー登山したとき以来であり、今回で3度目のお世話となった。

トイレもバイオで衛生的便座も暖かく、悪臭もなく快適であった。

小屋の女主人福島さんにもこやかな対応に心が和む。ここで働いている青年も青森県弘前からの出稼ぎで、しばし津軽談義に花が咲くが、津軽民謡や津軽三味線については地元でありながらあまり関心がなく、現在LPレコードを集めジャズ喫茶を開店すべく、弘前に店を改装準備中とのことで、現在は尺八の練習をしていて人さまざまな思いで生きているのだなという思いを強くする。

7月25日(水)

小屋発6時-頂上8:00-8:40 剣ヶ峰 9:00-10:20 赤岩小屋 10:55-七合目 11:20 宝永山分岐 12:00 宝永山第一火口経由し 13:30 富士宮五合目駐車場 13:30 着 16:00 帰宅

小屋の前からご来光が仰げるが、早い人は午前2時頃から頂上に向け出発して行く。

我々は4時過ぎに起床し、小屋の前でご来光を迎える。眼下に山中湖、多少雲もが多かったが、雲の切れ間からご来光を迎えることが出来た。

朝食後6時に小屋を出発御殿場ルート八合目見晴館を過ぎて徐々にジグザク道が急になってくる。この頃になると朝早く上った人たちが下山してくる。口々にもうすぐ頂上だから頑張ると励まされる。昨日出会ったご婦人は驚いたことに87歳一人でゆっくりと登っている。

頂上には1.5歳の女の子がお父さんのキャリーザックに背負われて頂上に登ってきていたのには驚いた。

鳥居が見えるとしばらくして頂上である。お鉢の淵を時計回りに浅間神社に向かう。お参りして、すぐに剣ヶ峰の頂上へ、頂上直下の道は相変わらず急坂で細かい砂利で滑りやすく手すりにつかまりながら登っている。この辺に来ると高度に慣れていない登山者がゼイゼイと息切らせながら苦しそうに登っている。幸い天気も良



「山中湖の上にご来光」



【登山道の脇には雪渓が残る】

く石柱「日本最高峰富士山剣ヶ峰」の前で登頂記念の写真を撮る

初めて登山した妻の友人も大変喜んでくれて感動していた。

頂上から娘や孫に電話をする。

下山は頂上に登ったことで長居は無用。お鉢めぐりはまたの機会にして元来た道を浅間神社に戻り。浅間大社の記帳を受け下山する。赤岩小屋まではノンストップで一気に下りて預けた荷物を受け取り御殿場ルート

大砂走り分岐から軽快に砂走りをしながら宝永山へのトラバースに入る。分岐にはプリンスルートの表示があった。この分岐から宝永山第一火口への道を一気に下り鳥の声を聴きながら、六合目を経由し富士宮登山口駐車場に戻る。ご苦労様。天気も幸いし雲も多い中、風も吹き炎天下の登山ではなくその分快適な富士登山あった。



「富士山頂上剣ヶ峰 3776m」



「富士山頂上火口壁」

後は御殿場駅経由昨日来た道に戻って一路横須賀へ。無事帰宅する。

「左のレリーフの人物は1860年外国人として初めて富士山表
口登山道から登山した初代駐日英国大使サーサザーランドオール
コック氏とのことである。」

石川 記

